

五才児の記録④



磯部景子
堀合文子
津守真

今日は実習生の実習日である。先生は今日一日は主として観察者として、実習生や子どもの様子をみている。その間、先生が子どもといっしょに遊んだ遊びをとりあげてみる。

庭で五才児が三才児を自動車にのせて押しているが、三才児のをせたまま自動車を庭のすみに残して、あつという間に山の方へ行ってしまふ。先生は三才児が残されているのをみつけて自動車を押しはじめた。別の五才児がきて、先生といっしょに押しはじめたので、先生はそつとぬける。

青桐の木の下で大勢の子どもが「竹の子一本ちょうだいな」をしている。みんな顔をまっ赤にして竹の子をぬいているが、なかなか竹の子がぬけない。先生はしばらくみていたが、「入れてね」といって子どもたちの中に入る。先生も力いっぱいひっぱるがなかなかぬけない。先生は、「すごい竹の子ね」と子どもたちに話しかける。子どもたちはみんな「きゃーきゃー」いっている。

いつの間にか、竹の子遊びのまわりに五・六人子どもたちが立ってみている。先生は「みんなてつだつてちょうだい。ほんとうにすごい竹の子よ」と子どもたちをきそつう。

みんなが加わつて「よいしょ、よいしょ」とぬきはじめる。みんなが加わつてやつとぬける。「ぬけた」と大歓声がある。また竹の子とりのまわりに子どもたちがあつまつてきてみている。

六月十七日 水曜日
実習日

先生が子どもといっしょに「竹のこいっほんちようだいな」「リレー」をする。

先生は「こんなに並んでやっとなげたのよ」と立っている子どもたちに話す。竹の子とりをしていた子どもたちは汗をふきながら、「すごい竹の子」という。まわりに立っていた子どもたちも加わって、長い列になる。

子どもたちが中腰になって竹の子とりをするのをみて、「すわってやらないとあぶないわよっておしえてあげてね」ととなりの子どもにいいのこして先生は保育室に行く。子どもたちはしばらく竹の子とりをしていたが、竹の子を追いかける鬼ごっこになり「竹の子まて」と追いかけはじめる。

保育室では実習生を囲んで五人の子どもたちが時計を作っている。先生が遠くから実習生や子どもの様子をみていると、庭でリレーをしていたAが、「先生、ひとり足りないから入って」と呼びにくる。先生はAといっしょにリレーをしている子どもたちの方へ歩いていく。Aが先生を呼びにいつの間、ひとり入ってくる。

先生は歩きながら人数をかぞえてみる。
先生「あら、ちょうどいいんじゃない」

A「あっ、ほんとうだ」とAは走っていく。先生はあとから歩いていく。

先生は子どもたちが山を一周して帰ってくることに応接する。

先生「㊀ちゃんががんばって」

先生「㊁ちゃんががんばれ、がんばれ」

と体をのりだして手をたたいて応接する。

先生「あっ、今度はずいぶん早いじゃない」

先生「がんばれ、がんばれ」

Eが新しく入ってくる。

E「今のところ、まけてるのどっち」とTにたずねる。

Yがやめる。

E「ぼく㊂ちゃんのかわり」と、さっそく走りだす。帰ってきて

E「何色と何色があるの。(バトンの色のこと)」

A「緑と白だよ」

E「ピンクはどうしたの。ちょっとみてくる」と保育室に行き、

ピンクのバトンを持ってくる。

先生「Eちゃん、どうもありがとう」

今までは二組に分れてリレーをしていたが、今度は三組に分れることになり、ごたごたする。

㊃「あなたは白よ。そしてあなたは緑」

E「さっき緑の人がピンクになればいい。緑の人、手をあげて」
みんな「はい、はい」と手をあげる。

㊄「Mちゃん、さっき、緑だったでしょう」

M「わからなくなっちゃったのよ」

S「どの列がピンク」

E「これじゃまるっきり、わからないよ」

T「こっちがピンクだよ」などとしばらくごたごたしていたが、

主に㉔とEの指図のもとに三組に分れる。

㉔ 「よい、どん」

第一走者が走りだす。

㉔ 「じゅんばんがちがっちゃったわ、これじゃ」

㉔ 「いいわよ」

㉔ 「いいわ」

なお、少々ごたごたする。

㉔ 「わたし、坂が得意じゃないのよ」

E 「ぼくは、ちょっと、宙にういちゃうの」

㉔ 「行ってましようよ」と出発点に行く。

第一走者が、山を一周して帰ってくる。

第一走者はだれにバトンをわたすのかまごつく。

㉔ 「こっち、こっち、こっちよ」

第二走者が走りだし、今度は走るコースについてごたごたする。第二走者が帰ってくると、

E 「バトンやめ」

T 「あ、ぼくにもいい考えがある」

M 「みんないこう」とみんな藤棚の下に行く。

先生は保育室に行く。

T 「花壇をまわることにしたら」

㉔ 「すべり台の坂をあがって、山をこえて、帰ってくるのにした

ら。あら、ピンクはもう行ったわよ」

㉔ 「フランコもおることにしたら」

㉔ 「さっきピンクの人、ピンクになった人、Eちゃんの方に行っ

て」

T 「じゃ緑の人、後に並んで」

E 「白の人、Eちゃんのとにきて」

㉔ 「なんだ、Eちゃん、先生みたい」

㉔ 「あなた、あっち」

㉔ 「あら足りないわよ」

E 「堀合先生呼んできて」

㉔ が先生を呼びに行く。

先生 「入れてね」

みんなが口々に先生に走るコースを説明する。先生は子どもたち

の説明を聞いて、復唱してみる。

㉔ 「先生、㉔ちゃんと同じ列に並んでね」

先生も列に入る。複雑なコースをみんな走りだす。先生も全く子

どもと同等の立場になって加わる。複雑なコースを何回も何回も走

る。このようにしてリレーは十時から十時四十分までつづく。Tが

「やすみ時間にしよう」というとみんな「わあっ」と保育室に行

く。

六月二十日 土曜日

雨ふりの絵をかく。大きい時計をつくりあげる。みんなて時計の

歌をうたう

雨ぶりの絵

一日中雨が降っていた。朝登園した子どもから、大きい画用紙に雨ぶりの絵をかき、先生は子どもたちのまわりをまわって、子どもたちと話す。

A 「ほら、せんせい、でんでん虫」

先生「ああ、でんでん虫も雨がふったりすると、よろこんででてるわね」

N 「せんせい、せんせい、水たまり」

先生「ああ、水たまりができたのね」と、ひとりひとりの子どもの絵をみて歩く。

先生「みんなきれいなかさをさしていますね。いろいろな形のかさがあっていいわね」

とみんなに話しかける。みんなそれぞれ、絵をかきつづける。先生は今まではってあったかべの絵をはずす。

先生「あらKちゃんもきれいなのがかけたわねえ。あら、Mちゃんのかさには模様がついているわ。Yちゃん、かわい長い長ぐつをはいていますね。◎ちゃんは両手でかさを持っているのね」

◎ 「せんせい、ほら」

先生「あら、着物を着たお母さんと洋服を着た子どもとね。だけれど◎ちゃん、ちょっとおかしいわね、色がぬってないわ。五才

の方はみんなもう色をぬったほうがいいわね。これなら三才の方もかけるわよ」

◎はうなずいて席にもどり色をぬりはじめる。◎は少し色をぬって又、先生に見せに行く。

先生「◎ちゃん、これ黄色いかさでいいけれども、まわりにも少しちがう色が入っているといいわね。黄色だけだとよく見えないでしょ。そういうふうにつくると、ていねいにかきましようね。ほら、みんなまだかいているでしょ。いそがなくていいのよ」◎はうなずいて、再び席にもどりかさはじめる。

先生は再び皆のまわりをまわって子どもたちに話しかけたり、子どもたちからの報告に答えたりする。◎のところききて、

先生「あら、◎ちゃん、やっぱりよくなったわ。色をぬったらきれいわね」

Yが絵を見せにくる。

先生「あら、いいわね。おうちの中から雨を見ているのね。名前をかきましよう」

K 「ほら、せんせい」

先生「あら、さつきは薬屋さんだったけれども、パン屋さんもできたわね。お店が並んでいるのね。あら戸がしまっているの、お休みなの」

K 「だって雨が降っているんだもの」

Yにつづいて次々に裏に自分の名前をかいて、できた絵を先生に

みせにくる。先生はひとりひとり子どもの説明をきいたりしながら受けとり、それを壁にはる。

N 「せんせい、もう一枚かくの」

先生「そうお、じゃあ、先生の机の上に画用紙があるからそれにかいていいわ」

一枚ではかきたりなくて、二枚、三枚とかく子どももいる。

先生「ほら、ちょっと見てごらんなさい。Mちゃんの絵、とつてもかわいいわよ。ほら、このお母さんのかごの中になんじんが入っているの。この人は赤ちゃんをおんぶしているし、この人は何を買っているのかしら、おもしろいでしょ」

飛行場

七人ほどブロックで飛行機を作つてあそび始める。それぞれ自分の飛行機を作つて日本軍、アメリカ軍といいながら相手の飛行機にぶつつけて落とすことをする。箱積み木で飛行場ができていく。

先生は絵と絵のつり合いを考えながら壁に絵をはりつづける。

時計つくり

Yがつくりかけの時計のつづきを作りはじめる。

Y 「せんせい、時計の針をつくる」

先生「あ、そうね」と、空箱の入った箱の中からやわらかそうな紙

みがきの箱をだして、たいらに開いてYにわたす。Yは時計の針をかいてきりぬく。先生はYのところに来て、はとめて針を箱型時計にさし込む。時計の箱のうしろを開きながら、

先生「Yちゃん、ここをあげてね。ここから手を入れて、このとめるのを両側に開いてごらんなさい。そうするとまわるわよ」

Yは箱のうしろから手を入れて、いっしょうけんめいはとめをとめるのを工夫する。

先生はまた絵をはりつづける。子どもたちが、「今日はNちゃんところにとまりに行く」ことをはなしにきたり、先生が絵をつなぎ合わせているのをみて「どうするの」ときいたり、かいた絵を持ってきて話したりして、先生との会話がつづく。先生はようやく絵をはり終わり、今度はつくりかけの大きな箱型時計を机の上に持つてくる。ホスターカラーをといたり、筆を持つてくる。次にままごとコーナーの子どもたちに「お客さまにきてちょうだい」といわれたので、お客さまになっていく。御飯茶碗の中にちり紙が入っている。先生は「ああ、これ、御飯ですわ」と笑いながら「いいこと考えましたね。ちゃんと白い御飯だわ」といいながら「いいことただく、一通りごちそうになってからおみやげをもらって帰る。それから廊下にてて、みまわす。部屋に入ってテレビの時間表を見る。とりはずした絵を整理する。」

※

※

大きい時計をつくりあげる

Eが先生のそばをとおりかかると。

先生「ああ、そうそう、Eちゃんきのうのあの時計をぬったほうがいいから、先生、あそこに絵の具を用意しておいたから、ぬってね」といいながら時計に近づくと。

M「ぼく、ぬろう。この中もぬっていいの」

先生「ふりがうらにならないように気をつけてね」

M「ねえ、Eちゃんぬろうよ」Eの他、五、六人の子どもが集まってくる。先生は筆をたくさん用意して下さる。

M「このふりこ、先にぬったほうがいいな」

E「ここは、マジックだね」

Mマジックを持ってくる。

E「ぼくたちが作ったんだよ」

先生「横もぬってね」

M「ここ、うらになるといけないから先にぬるの」

先生「あ、そうね。そこを先にぬってからだといいわね」

先生はもうひとつのさらに大きなダンボールの箱でつくった時計を別の机の上におく。

T「せんせい、ぼくもぬるのをやる」

先生「そうお、ぬってちょうだいね。何色がいいかしらね。緑色がいいかしら」と先生は、緑色のポスターカラーをといて筆も用意する。ふたつの時計にそれぞれ五、六人ずつの男児が色をぬる。

黄色の時計をぬっている子どもたちのひとりが「自動車の歌」をうたいはじめ。筆を動かしている子どもたちがみんなだんだんに声をそろえてうたいはじめ。先生は子どもたちの歌声を笑いながらきいている。

N「ねえ、Eちゃん、ここぬってもいいの」

E「ここから、ここ、横がさき」

先生は絵の整理をつづける。

C「ねえ、せんせい、ここは？」

と側面にマジックでかいてある模様をさす。

先生「ああ、そこね、上からぬっていいわ。ぬっても見えるから、大丈夫よ。そう、ほら見えてきた、見えてきた、大丈夫だわ」

R「こんなにたくさんあったのがもうなくなっちゃった」とポスターカラーをといたびんを持ちあげる。

先生「なくなっちゃった。でも、もう終りでしょ」

先生は時計のそばにきて見ながら、

先生「ね、ちよほど全部ぬれたわ。さあ、おしまい」

R「ここ、まだ」

先生「ああ、中、中はいいわ。こうやってふたがしまるからね」

とふたをしめてみる。

黄色の時計もぬり終る。

先生は廊下にて、お片づけをつける。女児たちは「やーまのくーみー、おかたづけ」といいながら部屋に入ってくる。

ままごと遊びをしていたFは、びっくりして、「お片づけ」と先生にたずねる。先生は「そうね、十一時すぎちゃったからもうお片づけしないとね」という。子どもたちはみんな片づけはじめ。先生も片づける。

先生「さ、おかえりの仕度をしていらっしやい」

毛虫

Eが帽子をかぶって帰り仕度をして保育室に入ってくる。机の上においてあるびんの中の毛虫をのぞきこみ、

E「ねえ、先生、前のすじがだんだん消えてくるの」

先生「前のすじって」

E「ほら、前にすーっとすじがついていたでしょう」

先生「ええ、ええ、おなかのところ」

E「うん、それがだんだん消えてくるの」

先生「じゃあ、さなぎになるのかしら」とびんの中の毛虫をみる。

先生「よく、みていませうね。だけれども、このはっぱ食べない

わね。こういうはっぱ好きはすなただけども」

E「おなかがいっぱいなんだよ。きっと、今」

先生「そうね、きっとそうなのね」

雨ふりの歌・時計の歌をうたう

みんなが帰り仕度をして保育室に集まってくる。

先生「じゃあ、少し時間があるから、歌をうたってかえりましょ

ね。今日は雨が降っているし、さっきは雨の絵もかいたし」

とピアノをひきながら「雨ふり」の歌をうたう。

子どもたちもうたう。次に「時計の歌」をうたう。

先生「今度は時計の歌ね。さっきは男の方たちが大きな時計をぬって下さったわね。黄色のはあそこにかわかつてあるわ。緑色のはくっつくといけないと思って、今は先生の机の下においてあるのよ」

みんなで「こちこちかっちゃん お時計さん」とうたう。一回うた

い終わって、先生はかざってある時計をみながら、

先生「あそこの時計はずい分よく動いていましたね。では今度はみ

んなも手をよく動かしてもう一度歌いましょう」

みんなでもう一度うたう。

六月二十二日 月曜日

いろいろの時計ができる

時計づくり

朝から女兒が時計をつくっている。先生は女兒ふたりにマジックをだしてあげながら、母親とはなしをしている。できた時計を並べかえたり、リボンをつけたりする。次々に登園する子どもたちと挨拶をかわす。

⑩「この時計、⑤ちゃんのと似てんのにする」

先生「ほんと、⑤ちゃんのはああいうのね」

⑪「④ちゃんとも似てんの」

先生「⑤ちゃんの時計は、これでしょう」と⑩にたずねる。

⑫「そう、ちょっと似てるのにする」

⑬のまわりに⑭、⑮がいる。

先生「みんなで作るのなら、⑤ちゃんみたいにお花をかけたほうが

おもしろいわね」

⑯は先生と話しおわると時計をつくらないうで行ってしまふ。

先生は、女児にも何人かいっしょでひとつの時計をつくらせてみたいと思っている。

先生は今日は時計つくりを力をそそぐ。時々、庭や、廊下に子ども様子を見に行くが、あとはほとんど保育室で時計をつくっている子どもたちを指導する。⑮や⑯は数字に興味がなく、まだ時計つくりに参加していない。先生は⑮や⑯が先生の側にきた時、時計つくりにさそってみる。

⑰はHが魚をかくているのをみている。

先生「あら、いいわね、お魚がとび上っているのね。⑮ちゃんも先生のお手伝いしてちょうだい。ここにお魚をかくてちょうだい」と画用紙をわたす。

⑱は魚をかきはじめる。⑲がお魚をかくて持ってくる。

先生「ああ、できた、できた。あら、大きくていいわね。数字をかく、それとも何がいいかしらね。そうね、かわいいお魚を四匹

ここにかくてちょうだい」と魚全体を文字板にみたてて四か所に鉛筆で印をつける。⑲は小さな魚をかくて持ってくる。

先生「できた、どれどれ」と⑲から時計をうけとり、

先生「それじゃ大きい魚をきれいにかざってね。⑲ちゃんこういう

ところ、好きなようにぬってね」と⑲にわたす。

先生は次々に「できた」といってくる子どもたちの時計をひとつひとつみて、振り子にする紙を切って与えたり、文字板にする紙を与えたりする。

⑳と㉑は他の子どもたちが時計をつくっているのをみている。

先生「あ、㉑ちゃんも、㉒ちゃんもお手伝いしてちょうだい。やって下さる」ときそってみる。㉓と㉔も箱をさがしはじめる。先生は、⑲の魚のうらうちにするための箱をさがす。

外から㉕が入ってくる。

㉖「何をやってるの、㉗ちゃんたち」

㉘「お魚をつくって先生のお手伝いをしているの」

毛虫

先生が箱を探していると男児が庭から葉っぱを二枚持ってくる。

N「先生、毛虫がついているよ。びんをちょうだい」

①「うわー、こわい」と①はにげる。Nは憤慨して、

N 「それ、もんしろちょうになる毛虫だよ。こわくなんかないよ」という。先生はびんを持ってきて、

先生「このびんどうかしら、いろんな葉っぱをやってみましょうね。どれ食べるかわからないから」

ふたりでつづきの絵をかく

ある机の上では、男児が五人、地震の話しながら絵をかいている。

HとAはめいめいの画帳にふたりでつづきの絵をかいている。

H 「よいしょ、よいしょ」

A 「よいしょ、よいしょ」

先生「あらあ、いいのができたわね。ふたりでいっしょにしたのね」とふたりの画帳をつなげて持つ。

先生「おもしろいことをしたわね」

ふたりの画帳をつないでみると飛行機になっている。

女兒が四人で大きい時計をつくる。

先生は時計をつくっている女兒のところに行く。

先生「その大きい箱でみんなで時計をつくったら、あんなお花の時計でもいいわね」

⑤ 「お花の時計はあるから、うさちゃんか何かにしたら」

④ 「おみかんでもいいわね」

④ 「いちごでもいいしさ」

先生「そうね、みんなよく相談してつくってね」とクレヨンとマジックを机の上におく。

⑤ 「ひとつはみかんで、ひとついちごで、ひとつりんごで、ひとつなしにするのね」

⑤・④・③が文字板をかいていく。

「わたし6をかいたから、あなた次、7をかいてね」

12までかきおわってみると4だけ特別小さくて、しかも横むきになっている。Aが、しきりに気にする。

④ 「⑤ちゃんは、これ4だって」

先生「そう、そう、ちゃんと4てわかるわ」

④も⑤もようやく安心する。④は③がまだかいているのに横からかこうとする。

③がおこる。

④ 「やってあげようと思ったのにわるいかしら」

③ 「ちゃんと聞いてからやるんだって先生がおっしゃったわよ」

④ 「③ちゃん、だけど、人の手伝いするんだからいいじゃない」

④ 「さあ、④ちゃん、ここつけてね」

④は気もちをとりなおして、かきはじめる。

時計に模様をかきながら、6月に誕生日のある人はだれなどと話している。午前中かかって四人で一つの振り時計をつくりあげる。

エレベーター時計

Rはひとり机に向かって、時計をつくっている。数字を1から12まで順に左から横にかいている。先生はそれを見て、先生「あら、その時計、おもしろいわね。針が1、2、3、4と横に動くのね。エレベーターの上についているみたいね」と手にとってみる。

花時計、鉄人時計

今日は女兒はほとんど皆時計づくりをした。ⓐは画用紙を花型にきって文字板にして箱をうらうちして、振り子も花でつくる。

Kが庭から入ってくる。

K「先生、鉄人の時計をつくるの。おなかに振り子をさげて」

先生「ああ、いいこと考えたわね。じゃ、画用紙にまず鉄人をおいてね」という。

Kは画用紙を探しはじめる。

先生「Kちゃん、紙ね、ここにあるわ。ここにかいてね。あとでそれに合う箱をさがすといいわ」

先生が子どもたちと時計をつくっている間に「木おにはいいて」と子どもがさそいにきたり、「でんでん虫をとるから、わりばしとびんをちょうだい」といってきたり、絵をかき終えて、先生にお話をきいてちょうだい」などと子どもたちが次々にくる。先生は

それぞれの子どもに応答する。

午前中保育室内で行なわれていたことがらは、時計をつくる、絵をかく、自分でかいた絵をみながら先生にお話をする、箱積み木、組み板をする、などであった。

庭では男児を中心に、ぶらんこ、砂場、リレー、自動車リレー、人工衛星とんだ、かたつむり探し、などがみられた。

昼食後の遊び

昼食後、Yたち三人が信号遊びをはじめた。信号遊びはおにをひとりきめて、おには陣地の木にもたれて目をつむり青、赤、黄の信号を発する。青の信号の時は歩き、黄色は走り、赤は止まる。おには信号を発してすぐふり返り、信号に反した人の名前をよび、おにと手をつなぐ。みんな手をつないだらおにがかわり、最初に手をつないだ人がおにになるという遊びである。

庭でしばらく三人で信号遊びをしていたが、保育室に先生を呼びにくる。先生は昼食のあと片づけをしている。

Y「先生、信号に入って」

先生はお盆を洗うのを途中にして、庭にでてくる。

先生がでてくる間、三人は楽しそうに話している。

先生「何の信号になるの」

O「あのね、青になったら歩いてね、黄色になったら走るの、赤

はとまるの」

Y 「で、つかまった人がおになの」

先生 「ああ、そういう信号ね。はじめだれがおに？先生、おに？」

O 「ちがう、Aちゃん」

先生 「じゃ、先生、まねしてするわね」と信号遊びの仲間に入る。

A 「青」

O と Y が歩く。先生もあとから歩く。

A 「赤」といってふり返る。

A 「あ、Oちゃん動いた。Yちゃんも」

O と Y は A のところに走って行き、A と手をつなぐ。A のかけ声にしたがって先生だけする。Y と O は A と手をつないで先生の行動をみる。先生も信号をまちがってつかまる。

先生 「じゃ今度、だれ、おに」

Y 「まだAちゃん」

A はまたかけ声をかけて皆歩きます。

K 「入れて」

先生 「いっしょにしましょう」

K は A とじゃんけんをしようとする。

A 「じゃんけんしないでいいの。ぼくがおにだから」
しばらくし四人みんなつかまる。

Y 「こんどぼくおに」

O 「ちがうもん、Aちゃんの次だから、ぼくだよ」

O が信号をおくる。まだ遊びのルールが確立していないで、何となくおにになる順番を子どもたちできめていて、おにになるのを楽しんでる。そして先生が子どもの仲間になって遊んでいるのを得意になっている。

R 「何してんの、先生」

O 「だめだよ。ぼくたち、先生と信号しているんだから」

先生は R に気づかない。

M 「先生、あそこにかげがいたわよ」

先生 「そうお、大きいの」

M はすぐ走っていく。F と H がゴムで体を一緒にしばって先生にみせにくる。

先生 「あら、まあ、ふたり、一緒なの」

O は次々に子どもたちが先生に話しかけるのでいらいらしてくる。

O 「ねえ、やらないの」と先生にいう。

先生は O に気づく。O は再び信号をおくりはじめる。女兒が五、六人「入れて」と入ってくる。R が再びやってくる。

R 「ねえ、先生、何してんの」

先生 「今ね、信号遊びって、いうんですって」

R 「ふうん」と行ってしまふ。

次に Y が鬼になる。

次々に女兒が加わって十五・六人の遊びとなる。

先生はちょっと後にさがってみている。

⑧「ねえ、先生、どれが走るの」

先生「あのね、黄色になったら走ってね」

○「それで赤は止まるの、青は歩いてね」

と先生のとを引きついで説明する。

人数が多くなつてごたごたしてくる。

K「信号するものこの指とまれ」

Y「もうやっているじゃないの」

先生「じゃ、じゃ今度は先生がおおになるわね」と陣地に行く。

先生「あか、あはは、⑨ちゃん」

⑩が先生のところに走っていく。⑪もついてくる。

先生「ここはね、信号をまちがった人だけくるの。⑫ちゃんはまだ

やっついていいのよ」

先生「きいろ」

皆走りだす。

体操の前のレコードがなりだす。皆、わつといつて遊びをやめて、列に並ぶ。先生も子どもたちの列のうしろに並ぶ。体操の音楽がなりはじめる。体操を終わって、行進曲になる。当番を先頭にして庭を行進する。先生はいそいで保育室に入り手早く床をはく。子どもたちは行進を終わる砂場の片づけをはじめ。先生は先ほど途中にしていたお盆を洗っている。子どもたちの片づけがひととおり

片づいたころ、

先生「きれいになったわね、おかえりの仕度していらっしやい」という。子どもたちは帰園の仕度をして席につきはじめる。先生はお盆を洗い終わる。(つづく)

第一五回 幼稚園教育実地指導研究会

日時 昭和四一年六月二(木)・三(金)・四(土)

会場 お茶の水女子大学講堂

主催 お茶の水女子大学附属幼稚園内

幼児教育研究会

☆ ☆ ☆

幼児教育講習会

日時 昭和四一年七月二二(金)―二五(月)

午前部 九、〇〇―一二、〇〇

午後部 一、〇〇―四、〇〇

会場 お茶の水女子大学講堂

主催 お茶の水女子大学附属幼稚園内

日本幼稚園協会